

令和2年11月15日

各位

山形市野草園
山形市大字神尾 832-3
電話 023-634-4120

山形市野草園からのお知らせ



氷河期の残存種 マルバノキ

蔵王の雪の便りを聞き、11月に入って紅葉する頃、マルバノキの花は咲き始めます。背中合わせに咲く2つの赤い花、五芒星のような形の花、何とも不思議な花です。調べてみると、なかなか面白いことが書いてあります。「マルバノキは4千万年前の氷河期の残存種（かつては広く分布していたが現在は限られた地域にのみ生存する種のこと）」、何とも壮大な話です。現在の日本では、中部・近畿・四国地方のごく一部に隔離分布（離れた場所に不連続に分布していること）する珍しい種です。この辺りには自生しないので、野草園のマルバノキは珍しい木を皆様方に見ていただくために植栽されたものです。

マルバノキ(マンサク科) 別名：ベニマンサク

マルバノキは山地の谷間などに生える落葉低木です。葉は互生し、卵円形または円形で基部は心形です。秋には美しく紅葉します。葉のわきのごく短い柄の先に、暗紅紫色の花を2個背中合わせに開きます。花弁は5枚あり、星形に平開します。マルバノキの名前は、その葉が丸いことに由来し、別名ベニマンサクはその花が赤色であることに基づいた名前です。

11月後半、紅葉が終わり植物は冬支度です。寒い冬を乗り越えるのと同時に、来春暖かくなった時にすぐに花を咲かせ葉を出すことができるよう、冬芽を付けた樹木をたくさん見ることができます。

オオカメノキやトチノキ、そして、キタコブシやホオノキなど、個性的な冬芽の代表です。樹木の葉がすっかり落ちて本格的な冬を前にした野草園で、ぜひ探してみてください。植物の驚くほどの生命力、生きるすべの不思議さに触れることができる事でしょう。花の季節では感じ取ることのできない、自然の巧みさを見つけてみましょう。

今年は、コロナウイルス感染拡大防止のために、展示以外のすべてのイベントやガイドウォーキング等を中止いたしました。それにもかかわらず、たくさんの方に来園いただいたことに心より感謝申し上げます。野草園は、12月から3月末まで4か月間の冬期休園《12/1(火)～令和3年3/31(水)》となります。来春、セツブンソウやザゼンソウが咲く頃のオープンを楽しみにお待ちしております。

11月後半の予定

◆【第27回 野草園の魅力を探る写真コンテスト入賞作品展】

- 日時 10/17(土)～11/23(月：勤労感謝の日) 9:00～16:30
- 場所 自然学習センター ○費用 入園料300円のみ(高校生以下無料)
- 内容 令和2年度の写真コンテスト入賞作品14点の展示

◆【芸工大生 日本画展《咲き、実り。》】

- 日時 11/17(火)～11/27(金) 9:00～16:30
ただし、初日 11/17(火)は13:00より 最終日 11/27(金)は15:00まで
- 場所 自然学習センター ○費用 入園料300円のみ(高校生以下無料)
- 内容 東北芸術工科大学日本画コース3年生7人による日本画作品展

春の開園日前の予定

◆【プレオープン】

- 正式な開園に先駆け 3/27(土)、28(日) 9:00～16:30
ザゼンソウやセツブンソウを始め、早春に咲き始める植物をぜひ見に行ってください。

●●● 11月後半に見られる花と樹木の果実と冬芽 ●●●



ムラサキシキブの果実(シソ科)

低い山地や野原に生える落葉低木です。葉は対生し、楕円形で縁に鋸歯があります。葉の付け根から集散花序を出し、多数の淡紫色の小さな花をつけます。萼は短い鐘形で浅く5裂し、花冠は先が4裂します。今、球形で紫色に熟した果実を付けて、見る人の目を楽しませてくれます。落葉した後もたくさん残っています。



ツルウメモドキの果実(ニシキギ科)

日本を含め、東アジア一帯に自生するつる性の落葉低木です。伸びた枝の先に黄緑色の花を集めて付けていました。今は、淡黄色に熟した果実がはじけ、3つに裂開し、その中から赤い仮種皮の種子が見えています。その姿がきれいなので、生け花の材料によく使われます。



イイギリの果実(ヤナギ科)

本州以南に分布する落葉高木で雌雄異株です。和名の由来は、昔、その大きな葉で飯を包んだため「飯桐」と言われるようです。ブドウの房のように垂れ下がった果実は、ナンテンに似ているので、「ナンテンギリ」とも言われます。おいしそうに見える実ですが、まずくて食べられないようです。



キタコブシの冬芽 (モクレン科)
今は枝先に寒さをしのぐため白い毛で覆われた冬芽をつけています。側に葉の冬芽もあります。4月になり暖かくなるとその冬芽から白い6枚の花弁の花が咲きます。



トチノキの冬芽 (ムクロジ科)
今は枝先に茶色の冬芽をつけています。表面は樹脂を出し粘性があるので触るとペタペタします。5月に花が咲き、20~30個集まり花序をつくっています。



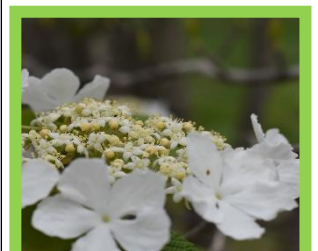
ホオノキの冬芽 (モクレン科)
今は灰色のキャップ状の芽鱗に包まれています。5月になるとそれが径20cm以上の白い花になります。萼と花弁の区別は明瞭でなく、雄しべの花糸は赤く、雌しべは円錐形に集まっています。



マルバマンサクの冬芽 (マンサク科)
丸い部分が花芽、尖っているところが葉芽です。春に先駆けて「まず咲く」のでマンサクといわれていますが、2月頃には花芽が黄色くなり始め、春の訪れを知らせてくれます。



オオカメノキの冬芽 (ガマズミ科)
今は枝先にウサギの頭のような形をした冬芽がついています。中央が花芽で両端が葉芽です。5月になるとガクアジサイに似た白い花を咲かせます。花の中心部は小さな両性花、周りは装飾花です。





オオヤマザクラの冬芽 (バラ科)

野草園のシンボルのサクラです。今は枝先に、寒さを防ぐために茶色の芽鱗で覆われた冬芽をつけています。茶色の芽鱗にはソメイヨシノのように短毛がなくスベスベしています。



ソメイヨシノの冬芽 (バラ科)

エドヒガンとオオシマザクラを交配してつくられたサクラで、公園や街路に最も多く見られます。冬芽は芽鱗が8枚程度で毛が密生しています。冬芽は花芽の方が葉芽よりぷっくりしています。



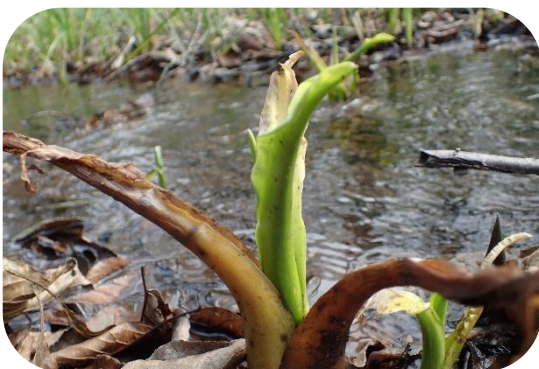
ヤマザクラの冬芽 (バラ科)

西日本に多いサクラです。冬芽の芽鱗は8枚程で無毛です。芽鱗の先が少し開いているのが特徴です。冬芽の下に葉痕（葉が枯れて落ちた痕）もあります。



ザゼンソウの冬芽 (サトイモ科)

今は、地面から暗褐色の冬芽を出しています。春になると冬芽から仏炎苞が成長してきます。花は紫褐色の仏炎苞の中に多数の小花をつけた丸い花序です。



ミズバショウの冬芽 (サトイモ科)

今は、水面に緑色の冬芽を出しています。これが春になると葉に成長し、その後仏炎苞を出します。花は、白色の仏炎苞の中に多数の小花をつけた細長く黄緑色の花序です。

